

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 渋谷教育学園渋谷中学高等学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他（中高一貫教育）

住所 〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-21-18

E-mail : webmaster@shibuya-shibuya-jh.ed.jp

Website : http://www.shibuya-shibuya-jh.ed.jp/

児童生徒数：男子 283名 女子 332名 合計 650名

児童・生徒の年齢 12歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（次世代リーダー養成）

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校の全教育活動は、持続可能な国際社会を築くリーダー育成を目標に実施されています。

まず、E S Dに不可欠な地球規模の視野については、豪州、米国、英国、シンガポール、ベトナム研修でのホームステイや学校訪問など、様々な国の人々との直接的な交流を通して育てています。シンガポールやベトナムの研修は参加人数が限られているので、参加した生徒はプレゼンテーションを行ない他の生徒たちと経験を共有していました。また、放課後第二外国語(中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語)講座の開設、中国の学生たちとの文通、ジャーマンスクールの生徒たちを授業に招待してのディスカッション、ドイツ本国でのサッカーの親善試合など研修以外の交流もいろいろ行ないました。その他、オランダ、ドイツ、メキシコ、オーストリア、オーストラリア、シンガポールから留日生を受け入れ、自国の文化の紹介や日本との違いを発表してもらう機会を作りました。

次に、各教科の授業についてですが、環境、エネルギー、貧困、平和、その他の国際問題などを学ぶ際は、自調自考→行動→発表という過程を重視しています。各学年、現地集合で歴史的観点から重要な地で研修を行なっていますが、それもこのプロセスに基づき進められており、今年度も研修後にプレゼンテーションを行いました。特に高校1年の英語の授業では広島研修の研究成果をインターネットで米国の高校生に紹介して意見交換を行ないました。また、中学、高校においてE S Dを推進する際に課題となる教科横断型授業開発にも積極的に取り組みました。社会科、英語科、音楽科が協力して行なったアフリカの貧困についての授業がその一例ですが、こちらも教室内の学習だけでなく、ギニア大使館を訪問してのインタビューも行ないました。

次に、次世代リーダー育成についてですが、特に、体系的な思考力、問題発見解決能力、クリティカルシンキング、データや情報の分析力を向上させる機会として「自調自考論文(大学の卒業論文のイメージ)」を製作させています。実践的なリーダーシップ力を伸ばす機会としては、米国ハーバード大学の学生寮に宿泊しながら同校の学生とディスカッションをしたり、マサチューセッツ工科大学や企業人と話をしたりする「次世代リーダー養成プログラム」を設けました。さらに、シンガポールの名門校である Raffles Institution が、世界各国の次世代リーダー輩出校のネットワークを作る目的で開催している Tiltshift 2014(国際高校生会議)と Prometheus Cup(高校生国際ディベート大会)に招待され、代表の生徒たちが参加し、活躍しました。

最後に、生徒たちのモチベーションを高める機会ですが、卒業生ネットワークを作って大学や社会での活躍を把握し、ニュースレターでの紹介、卒業生による講演や相談会、シンポジウムを定期的に行なっています。生徒たちが実際に持続可能な社会構築に携わるのは卒業後です。本校のE S Dを通して身に付けた力が社会でどのくらい有用であるかを伝えてもらうことは在校生のやる気を促すだけでなく、教員の自信にもなっています。

上記のような教育活動の結果、自主性と国際性、発信力に富む生徒が多く育ち、E S D関連の活動が積極的に行なわれています。ボランティア部が主体となってポリオのワクチンの購入につながるペットボトルのキャップを回収したり、ユニクロが展開する「服のチカラプロジェクト」という古着回収プロジェクトに段ボール箱55箱分もの子供服を寄付したり、文具をネパールの子供たちに送ったりというのがその一例です。さらには、被災地支援プロジェクトとして、ボランティア部では毎年夏合宿で長野県栄村を訪れ、農作業を手伝っています。発案から呼びかけ、実施、継続まで全て生徒の手で行われていることが

本校の誇れる点であると思っています。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他(夏休み)